



前原高校だより

2021年4月27日
第2号
校長 大城 健

総合スポーツコース1年「野外実習」報告

4/19・20の2日間、総合スポーツコース1年野外実習を東村エコパークで開催しました。昨年度はコロナ禍のため中止を余儀なくされた企画です。今年も残念ながら宿泊はかないませんでした。感染対策を徹底しながら「自然に対する認識を深め、生徒の親睦を深め、体力向上と規律ある態度を育成する」などの目的を十分に達成できた実習になりました。



両日とも天候に恵まれ、1日目はPA（プロジェクト・アドベンチャー）体験。パーク職員の（1日目 心をついに）協力も得ながら、挨拶練習・集合訓練、フィールドゲームに取り組みました。数々のフィールドゲームをクリアすることで、

グループの輪、クラスのまとまりを築くことができました。2日目の午前は慶佐次川にてカヌー体験。約3時



（2日目 慶佐次川カヌー体験）間マングローブを満喫、生息する生物・植物を観察しながらの楽しい実習でした。午後は古宇利島へ。古宇利島大橋散策ではエメラルドグリーンの海を見ながら楽しい一時を過ごしました。2日間の実習でクラスの絆が深まり、生徒達の学習意欲、規範意識が高まったように思います。総スポでは2年でマリン実習、3年でスキー実習と体験を重ねていきます。生徒達は3年間でたくましく成長してくれることでしょう。

（1日目 壁に挑む）

女子バレー部県大会(平安杯)ベスト4！

第66回全九州バレーボール総合選手権大会県予選（平安杯）において、女子バレー部が1回戦美里工業、2回戦西原、3回戦石川と順調に勝ち上がり、準々決勝では力の拮抗した中部商業と互角の戦いを展開。途中ミスから中商に流れを奪われそうになるも、焦ることなくリズムを取り戻し2-0で勝利を納めることができました。準決勝のリーグ戦（前原・コザ・那覇・小禄）では、善戦するも力及ばず4位という成績でした。女子バレー部にとってベスト4進出は約1年ぶりのことです。生徒達にとって大きな自信に繋がる貴重な大会になりました。



誇り高き前原高校！輝かしき足跡！



本校は戦後すぐに開校し、創立76周年を迎えます。その間、中部地区の伝統校として名を馳せてきました。1972年5/15沖縄の本土復帰が実現し沖縄県が誕生したのに伴い、当時の琉球政府立高校は全て沖縄県立高校になりました。1973年甲子園「春の選抜」に、沖縄県立高校として初めて出場したのが前原高校です。当時主催の毎日新聞社から贈られた記念の旗が本校に残っています。（1973年夏、1996年夏も出場）

また1958年、首里高校が沖縄の高校として甲子園に初出場したのは（1973年 春の選抜初出場）有名ですが、その2年後の1960年、沖縄代表として初めて国民体育大会に出場したのが本校です。国体の野球競技は夏の甲子園ベスト8など実力校12校が出場する大会ですが、当時、沖縄代表のチームが特別に招待されたものです。本校が県大会に優勝しその切符を獲得しました。（1960年 国体派遣県大会優勝→）

また復帰後、沖縄県のリーダーである沖縄県知事は8名選出されています。その出身校は、屋良朝苗・平良幸市・大田昌秀（沖縄師範学校）、西銘順治・稲嶺恵一・仲井眞弘多・翁長雄志（那覇高校）、玉城デニー（前原高校）。高校では那覇高校と前原高校だけです。多くの人材を輩出した前高、母校に誇りを持って頑張ろう！

